

Luther's Small Catechism

Property of

Rev. W. Schillinger

福音路帖教會教理問答

福音路帖教會教理問答

(此問答書はモリヤルチン、ルーテルが、獨逸語にて著したるを、日本語に譯したものなり。)

第一

十

誠

是は一家の首長たる者、其家族に教めべき爲に、平易き言葉にて書きしるものなり。

第一誠 我は主たる汝の神なり。汝わが面の前に我の外何物をも神こすべからず。

汝自己のために何の偶像をも影もべからず又上は天にある者下は地にある者ならびに地の下の水の中にある者の何の形狀をも作るべからず之を拜むべからずこれに事ふべからず。

問 此誠命の意味は何ぞや。

答

我等は總ての事物に優りて神を畏懼れ、敬愛しみ且信と委すべしとのとなり。

第二誠

汝の神

エホバ

はおのれの名を妄に口にあくる者を罰せではおかざるべし。

問 此誠命の意味は何ぞや。

答

我等は神を畏懼れ且敬愛しむが故に、その聖名によりて呪詛、誓約、魔法を行ひ、虚言又は騙欺くべからず。然れども必要の場合に於ては、何時いても聖名を呼求め、祈禱、讃美、感謝を以て、神を禮拜むべしとのとなり。

第三誠

安息日

を憶にてこれを聖潔すべし。

六日の間勞きて汝の一切の業を爲すべし。七日は汝の神エホバの安息なれば何の業務をも爲すべからず。汝も汝の子息息女も汝の僕婢も汝の家畜も汝の門の中にゐる他國の人も然り其はエホバ六日の中に天と地と海と其等の中の一切の物を作りて第七日に息みたればあり是を以てエホバ安息日を祝ひて聖日と申たまふ。

問 此誠命の意味は何ぞや。

答

我等は神を畏懼れ且敬愛しむが故に、その聖語、聖日及び福音の講話を輕侮するとなく、却りて聖く之を考究へ快く聽從ひ又學ぶべしとのとなり。

第四誠

汝の父母

を敬へ是は汝の神エホバの汝にた

まふ所の地に汝の生命の長からん爲なり。

問此誠命の意味は何ぞや。

答我等は神を畏懼れ且敬愛しむが故に、両親及び高貴き人々を輕侮じ、又は嫌厭はしむる事なく、却りて彼等を敬ひ、愛しみ、尊み、且事へ、從ふべしとのことなり。

第五誠汝殺す勿れ。

問此誠命の意味は何ぞや。

答我等は神を畏懼れ且敬愛しむが故に、隣人の身體に如何なる傷害をも加ふるとなく、却りて彼等が危難又は究乏に陥りたる場合に於ては、彼を扶助け、慰藉むべしとのことなり。

第六誠汝姦淫する勿れ。

問此誠命の意味は何ぞや。

答我等は神を畏懼れ且敬愛しむが故に、言葉と行爲とに於て貞節と清潔とを守り、相互にその配偶を愛おみ、敬ぶべ事とのとなり。

第七誠汝盜む勿れ。

問此誠命の意味は何ぞや。

答我等は神を畏懼れ且敬愛しむが故に、隣人の金錢又は所有を盗み、或は不正又は詐欺の所爲によりて己れの資産を蓄積あることなく、却りて隣人の所有物を保護り、また増加する様、かれを扶助くべきものとなり。

第八誠 汝その隣人に對して虚妄の證據をたつる勿れ。

問此誠命の意味は何ぞや。

答我等は神を畏懼れ且敬愛しむが故に、隣人を誣毀、内應、讒訴し又は障害となるべき報告をなすとなく、却りて彼を辯護り、譽め其ほか總て彼の行爲を最も親切に取扱ふべしとのとなり。

第九誠 汝その隣人の家を貪る勿れ。

問此誠命の意味は何ぞや。

答我等は神を畏懼れ且敬愛しむが故に、隣人の家資、遺産又は邸宅を獲んが爲めに、奸計を以て或は法制上の正當を口實となして争ふとなく、却りて之

を保有せしめんが爲に、彼を扶け導く様心懸くべしとのとなり。

第十誠

汝の隣人の妻及びその僕婢牛驢馬並に凡て汝の隣人の所有を貪る勿れ。

問此誠命の意味は何ぞや。

答我等は神を畏懼れ且敬愛しむが故に、隣人の妻をして夫を嫌厭はじめ、僕婢を誘出しあたは家畜を放ち去らしむる所爲をなすとなく、却りて止まらず其職務を盡すべき様彼等を勧め励ますべしとのふとなり。

問神は總て是等の誠命に就て、何と教訓へ給ひしや。答神いひ給へり「我エホバ汝の神ハ嫉む神なれば我

を悪む者にむかひては父の罪を子にむくいて三四代に及ばず我を愛しわが誠命を守る者には恩恵を施して千代にいたるなり」と。

問此教訓の意味は何ぞや。

答神は總て是等の誠命を犯す者を懲罰むと嚴かに命ト給へり。此故に我等は神の好み給はざることを恐懼れ、誠命に逆ひて何事をも爲さざるべし。然れ共神は總て是等の誠命を守る者には恩恵と祝福とを施すべしと約し給へり。依りて我等は神を敬愛しみ信ヒ委せ且つ快く誠命に遵行ふべしとのとなり。

第貳 使徒信經

是はいづかのうちの首長たる者が其家族に教ゆべき爲に平易き言葉にて書記したる者なり。

第一個條 創造に就て。

我是天地の造り主能はざる所なき父の神を信す。

問此個條の意味は何ぞや。

答我是神が我と萬有とを創造り給ひ一とを總てわが肢体と感能、理性と才能とを有てる身體とに衣服、食物、邸宅、家族と他のあらゆる資産とを添て賜ひ且守護り給ふこと。生命の爲に必要なる物を日々豊裕に供へ、諸の危難より我を防衛

第二個條 諸罪に就て。

きての惡より我を保有ち、守護り給ふこと。我に於ては是等の者を受くべき毫末の功績又は資格あるにあらずして、悉く皆神の純潔、聖善、慈父なることを、恩惠とによれる恩賜なることを。是等の恩賜について感謝、讚美し且事へ、從ふことをは、わが盡すべき義務たること、を信す。是は最も確實に真正なるふとなり。

我は其獨子我等の主イエスキリストを信す。主は聖靈によりて胎れ處女マリアより生れボンテ方ピラトの時苦楚を受け十字架に釘られ死て葬られ冥府に下り第三日に死より

更生り天に昇り能はざる所なき父の神の右に座し給へり彼處より來りて生る人こそ死る人こそ審判き給ふべし。

問此個條の意味は何ぞや。

答 我は永遠より聖父の生み給へる眞正の神にして、又處女マリアより生れ給へる眞實の人たるイエスキリストは、我主たることを信す。主は金銀を以てせず、神聖にして尊貴を血と、罪科なくして受け給へる苦楚と死とを以て、神を離れて懲罰られたる我を、總ての罪科と死と惡魔の權下より奪還し、保護り救ひ給へり。是は我を主の所屬として聖國に於て主の配下に住はしめ、究極なき義と貞潔と

祝福との裡に、主に奉事へしめ給はんが爲なるとは、恰も主が死より甦り、永遠無究に在して、統宰り給ふが如し。是は最も確實に真正なることなり。

第三個條 聖成に就て。

私は聖靈ご聖なる基督教會則ち聖徒の交際ご罪の宥恕ご身體の更生りご窮なき生命ごを信ず アメン。

問此個條の意味は何ぞや。

答 我は自己の理性又は能力によりて、主たるイエスキリストを信じ臻ることを得ざるなり。然れ共聖靈は福音を徹して招致き、恩恵によりて教化へ、真正の信仰の裡に我を聖成め、守護り給ふと。如斯して地上にある總ての基督教會を招致き、聚集め、教化へ、聖成め、真正の信仰の裡にイエスキリストと一致するとによりて守護り、教會に於て日々我と總ての信徒の罪科を豊裕に宥恕し、終審の日に於て我と總ての死者とを更生らせ、キリストを信ずる我と總ての信徒に、究極なき生命を賜ふとを信す。是は最も確實に真實なることなり。

第三參 主の祈禱

これは一家の首長たる者か、其家族に教ゆべき爲に、平易き言葉にて書きしるものあり。

緒
問此緒言のことば
言 天に在す我儕の父よ。

答 是によりて神は真正に我等の聖父にして、我等は確實にその子女たることを信じ、眞理の眞實と信任とを以て神を呼び求むるなど、恰も子女が切實に慈愛ぶかき両親に、呼び求むるが如くすへも様、慈愛によりて我等を勵し給ふとなり。

第一の祈願 願くは爾名を尊崇せ給へ。

問 此新願の意味はなんぞや。

答 神の聖名は眞實に神聖なりと雖も、猶我等によりて崇め尊まれ給はんとを、此新願に於て禱るなり。

是は如何にして成就せらるゝや。

答 神の聖語の眞正と聖潔との程に、その聖語を歌へられ、且我等は神の子女として、其生運を送るべ

き様、聖語によりて啓導かるる時に、成就するなり。
「天に在す慈惠ぶかき聖父の神よ、願くは斯の如く我等を祐導き給へ」。然れ共聖語の教示に因らず玄て、以外のとを教へ、又はその如く自ら行人者は我等の中に神の聖名を讀ずとなり。「天に在す聖父よ、願くは斯の如きとより我を保護り給へ」。

第二の祈願 爾國を臨らせ給へ。

問 此祈願の意味は何ぞや。

答 神の聖國は我等の祈禱を俟まじて、確實に臨格り給ふと雖も、猶我等に臨格らんとを、此新願に於て禱るなり。

問 是は如何なる時に成就せらるゝや。

答 在天の聖父の神は聖靈を我等に賜ふが故に、我等はその聖恩によりて聖語を信じ、地に於ては信仰ぶかき生涯を送り、天に於ては長久に神と偕に住はん時に成就するなり。

第三の祈願 爾旨の天に成る如く地にも成せ給へ。

問 此祈願の意味は何ぞや。

答 神の聖善にして恩惠ぶかき聖旨は、我等の祈禱を俟すして、確實に成遂げ給ふと雖も、猶我等によりても成さざめ給はんとを、此祈願に於て禱るなり。是は如何なる時に成就せらるゝや。

の如き、一切の奸惡なる謀略と希望とを破毀りて成遂しめず。終審の日に至るまで聖語と信仰とによりて、我等を強壯め、堅く保有ち給ふ時に成就するなり。是は神の恩惠ぶかくして善良なる聖旨な

第四の祈願 我儕の日用の糧を今日も與へたまへ。

問 此祈願の意味は何ぞや。

答 神は我等の祈禱を俟すして、確實に悪き者にも、日用の糧を與へ給ふと雖も、我等が聖恩を感じし、かつ敬謝して之を領る者となさしめ給はんとを、此祈願に於て禱るなり。

問 「日用の糧」に包含まれたる者は何ぞや。

答

此世の生涯に關する需要と輔助に屬する一切の物をいふ。例へば食物衣服金錢器什家屋地所其他の物品、信仰厚き配偶と善良なる子女、信用すべき僕婢と忠實なる官吏、順良なる氣候、平和と健康教育と令譽、信實なる朋友、善良なる隣人等の如し。

第五の祈願

我儕に罪を犯すものを我ゆるす如く我儕の罪をも免し給へ。

問 此祈禱の意味は何ぞや。

答 天に在ます聖父の神は我等の罪科を認めず、又は罪科の故を以て祈りを却け給はざらんとを、此祈願に於て禱るなり。蓋われらは何物をも願ふの効績なく、又資格なればなり。然れ共神は我等が日

々多くの罪科を犯すを以て、唯懲罰むべき者なるをも顧みず、聖恩によりて一切の罪科を免し給へり。是に依りて我等も亦我等を傷害ひ或は困苦むる者を信實に免し、且當に是等の者に善事をなすべき様心懸べきとなり。

第六の祈願 我儕を試探に遇せず。

問 此祈願の意味は何ぞや。

答 神は眞實に人を罪科に陥るべき試探に遇せ給はざるなり。然れ共我等は惡魔と世と肉とに騙欺かれ又は誤信不信、絶望其他の大にして且恥づべき罪科に誘ひ感はされざる様、聖恩によりて守護り、祐助け給はんとどまた若し我等が斯の如き試探

に遇ふとも、威力を受て、勝利を獲んとを、此祈願に於て禱るなり。

第七の祈願

惡より極出し給へ。

問 此祈願の意味は何ぞや。

答 我等は天に在ます聖父の神が、一切の惡事より我等を救出し、絶ず肉体と靈魂と又は所有品と品性とを愛護り、死に臨みては幸福なる終焉を興へ、且つ聖恩によりて悲哀なる此世より取りて、長久に天の寶座の下に住はしめ給はんとを、以上總ての祈願の綱領として、此祈願に於て禱るなり。
(國と權と榮とは爾の究あるく有ちたまふ所あり) アメン

問 アメンの意味は何ぞや。

とによりて一切の罪科と惡慾と共に沈溺れ且滅亡さるゝこと新らしき人が再び日々現出れ且興起り、永遠に義しく且清潔く、神の聖前に活るとを表す也。

問 そは聖書の何處に記しあるや。

答 聖パウロが羅馬人に贈れる書翰第六章四節に「我儕その死に合ふバブテスマに由て彼と同に葬らるゝはキリスト聖父の榮に由て死より甦らせし如く我儕も新き生命に行べき爲なり」と記されたる。

第五 聖晚餐の禮典

これは一家の首長たる者が、其家族に教ゆべき爲に、平易き言葉にて書きしる書記し

たるものなり。

問 聖晚餐の禮奠とは何ぞや。

答 それは基督教者たる我等に食し且飲むべき爲に、麵包と葡萄酒とともに賜ふ所の我等の主イエスキリストの真正の体と血とを受る禮奠にして、キリスト自ら創定め給へる者なり。

問 そは聖書の何處に記あるや。

答 聖福音傳記者馬太、馬可、路司は聖パウロと共に斯く記せり。

「我儕の主イエスキリスト賣るゝ夜パンを取り謝

して之を擘き弟子に予へて云けるは取りて食せよ此は爾曹の爲に與ふる我身体なり我を記ん爲にこれを行せよ」「食して後杯を取り前の如くして謝し彼等に予へて曰けるは爾曹みな此杯より飲め此は新約の我血にて罪を宥恕さんとて衆の人への爲に流す所のものなり爾曹も如此れてないて飲むごとに我を憶へよ」。

問 かく飲食するとふよりて賜ふ所の恩恵とは何ぞや。

答 それは「罪を宥恕さんとて爾曹の爲に予ふ且流す」との聖語によりて表示された。即ち是等の聖語を徹亥てみの禮奠に於て、罪科の宥恕と生命と救極とを予へ給ふなり。蓋罪科の宥恕のある處には

問 身体の飲食が如何にして斯の如く大なる事業をなすを得るや。

答 身体の飲食は斯の如き大なる事業をなすにあらず玄て、眞實に之をなすはキリストのいひ給へる語即ち罪を宥恕さんとて爾曹の爲に予あ且流すとの聖語なり。是等の聖語は身体の飲食と共に禮奠に於て首要なる者にして、信する者には聖語の表示し給ふ處の罪科の宥恕をたまふなり。

問

然らば何人がこの禮奠を領るに適ふものなりや。

答 斷食と身体の準備とは確實に外部の善き仕度なりと雖も「罪を宥恕さんとて爾曹の爲に」との聖語は、眞實に信認する者なり。蓋爾曹の爲に」との聖語をす」との聖語を信する者は、更に眞正の資格を有ち又好き準備をなせる人なり。然れ共是等の聖語を信せざる者は疑ふ者は、資格なく又領るに適はざる者なり。蓋爾曹の爲に」との聖語は、眞實に信認の心意を要求すればなり。

附録

一家の首長たる者が其家族に朝夕かくの如く祈るべしと教ゆへし。

朝の祈禱

(毎朝起きて先づ左の如く唱ふべし)

父ご聖子ご聖靈の聖名に依りて。アメン

(しる後ち、次の祈禱を唱ふべし。)

天の聖父よ汝は終夜總ての危難と不幸とを防ぎ保護
 り給ひたることを謝し奉る。今日も汝の聖旨に合ふ爲に
 諸の罪と惡事とより離し正しき思ひご言ご行ごを以
 て汝に奉事させ給はんとを希ひ身體と靈魂と凡ての
 ものを汝の御手に委ね奉る而して惡魔に打勝れざる
 爲に我に就ての保護りを汝の聖き天使に持せ給はん
 とを、聖子イエスキリストに依て希ひ奉る アメン。

晩の祈禱

(毎夜寝る前に先づ左の如く唱ふべし。)

聖父と聖子と聖靈の聖名に依りて。アメン。

(然る後ち、次の祈禱を唱ふべし。)

天の聖父よ汝は終日大なる恵を與へ且保護り給ひた
 ることを謝し奉る。今日我れ誤て犯したる諸の惡事と罪
 を免し且大なる憐恤に依て、今夜總ての災害と危難
 を防ぎ護り給はんとを希ひ身體と靈魂と凡ての者
 を汝の御手に委ね奉る。而して惡魔に打勝れざる爲
 め、我に就ての保護を汝の聖き天使に持せ給はんとを

聖子イエスキリストに依て願ひ奉る。アメン。

一家の首長たる者が、其家族に食事の際斯く祝福を願ひ且感謝すべきことを教ゆへし。

嗚呼天の父なるエホバの神よ、我等の主イエスキリストに依り、汝の慈愛によりて與へ給ふ汝の賜物と我等とを祝福し給へ。アメン。

明治三十六年十二月二十日印刷

明治三十六年十二月廿九日發行

譯 者 山 内 直 丸

熊本縣熊本市新屋敷町參百八拾八番地
佐賀縣佐賀市水屋町百八拾壹番地

發 行 者 山 内 量 平

印 刷 者 河 島 梅 雄

熊本縣熊本市京町壹丁目七拾參番地
熊本縣熊本市京町壹丁目七拾參番地

印 刷 所 河島活版印刷所